

2011年4月14日

岐阜県知事 古田 肇様

## 浜岡原発、若狭の原発群の運転停止とエネルギー政策の転換を求める要望書

県民の安全と幸せのために尽力いただき感謝します。

東京電力福島第1原発の放射性物質大量放出事故(レベル7)で、電力会社や政府、推進研究者らが地震や津波も「止める・冷やす・閉じ込める」の機能が作動し、電源喪失や炉心溶融はあり得ないと言い続けてきたことが、絵空事であったと誰の目にも明らかになりました。

しかも3基の原発と4つの使用済み核燃料プールの安定した冷却の見通しすらたらず、今も放射性物質を出し続けています。東日本大震災の復興を妨げている最大の要因が、福島第1原発の事故という「人災」です。

さらに原発事故史上類のない高濃度と低濃度の放射能汚染水を大量に海に流しました。汚染は親潮に阻まれて底質に留まったり、ゆっくり沿岸を南下し、生物に蓄積されます。(別添1)

4月7日深夜のM7.4の余震で女川原発、東通原発の電源が一時喪失し、非常用電源すら十分機能せず、かろうじて冷却を維持しました。福島第1原発事故の1歩手前でした。

避難指示地域の住民の苦勞と先行きへの不安、避難圏外で高濃度に汚染された土壤の地域にも関わらず、放置された人々の苦惱に胸が締め付けられます。避難指示区域以外の小学校のグラウンド中央で、地上1mで5.4 $\mu$ Sv/h(地表1cm6.9 $\mu$ Sv/h)の小学校に通わせる父母の思いはどんなでしょうか。

関東甲信越以西の静岡、三重、石川、島根、岡山、宮崎、沖縄で放射性ダストが検出されました。シンガポールで兵庫県産のキャベツから118Bqのヨウ素が検出されました。国土の大半が汚染されたのです。ところが収束の目処はなく、さらなる危険の可能性も否定できません。

地震大国の日本では福島原発だけが特別危険な場所に立地しているわけではありません。東海地震の想定震源域にある中部電力浜岡原発、福井県敦賀半島の活断層の真上にあるもんじゅ、敦賀、美浜および高浜の各原発も同様に危険です。(別添2)

特に岐阜県と敦賀原発やもんじゅの距離はわずか25<sup>km</sup>です。岐阜県は1年の大半が、伊吹おろしの風下です。美浜原発から飛ばした風船は2から3時間で岐阜県内に到着します。事故の時に子どもにヨウ素剤を飲ませるのも間に合わない程、近い距離です。そして、岐阜県の広大な地域がホットスポットになる可能性が高いのです。

原子力防災に備えてモニタリングポストの増設、放射線検出器、サーベイメータ購入を決断されたことは、高く評価します。しかしどれだけ備えても、放射性物質が大量に放出されあらゆるものを汚染し、生命を脅かす原発震災には対応ができません。福島の現実から明らかです。原発を止め、危険の元を絶つしかありません。浜岡原発を止めても電気は足ります。(別添3)

同時に日本は他の国からうらやましがられる程に豊かな自然エネルギーを最大限生かしたエネルギー政策への転換が不可欠です。

記

1. 中部電力浜岡原発、福井県の原発を即刻停止するよう、各事業者と国に強く働きかけてください。
2. 原発、核燃料サイクルという硬直したエネルギー政策を転換し、日本の自然条件を最大限に活かしたエネルギーへの転換を国に強く働きかけてください。

以上

提出団体 放射能のゴミはいらない!市民ネット・岐阜